

TIMEVALUE

提供: ExcelPedia

概要

指定された時刻をあらゆる文字列に対応するシリアル値を返すワークシート関数です。表示結果はセルの書式設定の表示形式の設定によって異なり、時刻形式の場合は時刻で表示されます。

書式

TIMEVALUE(*時刻文字列*)

引数の説明

時刻文字列

時刻をあらゆる文字列を指定します。"6:45 AM" や "23:45" など、半角のダブルクォーテーション(") で囲んだ文字列で指定します。時刻文字列に含まれる日付情報は無視されて、時刻情報のみ表示されます。時刻形式として無効な文字列は #VALUE! エラーとなります。

使用例

TIMEVALUE関数使用例 (Excel2003)

	A	B	C	D	E
1	時刻文字列			計算式	計算結果
2	= "20:30"			=TIMEVALUE(A2)	0.854166666666667
3	= "2013/10/24 20:30"			=TIMEVALUE(A3)	0.8541666666664241
4	= "1899/1/1 20:30"			=TIMEVALUE(A4)	#VALUE!
5	= "aaaa"			=TIMEVALUE(A5)	#VALUE!
6					

表のセル部分のみコピーし、ワークシートに貼り付けて、試すことができます。
Internet Explorer 普通に貼り付け / FireFox [形式を選択して貼り付け] - [テキスト]

1. 2行目は文字列"20:30"に対応する時刻シリアル値が計算されます。
2. 3行目は文字列"2013/10/24 20:30"の時刻部分に対応する時刻シリアル値が計算されます。
3. 4行目は1900年1月1日以前の日付の文字列なので#VALUE!エラーとなります。
4. 5行目は時刻を表す文字列として有効ではないので#VALUE!エラーとなります。

※2行目、3行目は同じ小数が表示されるべきですが、上記例では異なる結果となります。したがって、計算の過程で日付を含む時刻文字列を計算させる場合、本来のシリアル値との誤差が発生していると考えられ、日付を含む計算の場合にTIMEVALUE関数を利用する場合は注意が必要です。

誤差を解消する方法は時刻計算誤差の解消方法を参照してください。

関連項目

関数/日付と時刻の関数

「<http://localhost/mwiki/index.php/TIMEVALUE>」より作成

カテゴリ: 関数 | 関数/日付と時刻の関数

- このページの最終更新は 2013年10月25日 (金) 20:34 に行われました。